

群馬県立藤岡特別支援学校 学校評価一覧表① (令和2年度版)

(様式1)

※(〇%)は、職員及び保護者アンケートにて「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答のあった割合です。

羅 針 盤			担当分掌	方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の80%以上が満足している。 学部・学級便りや連絡帳、ホームページ等から「お子さんの学習の様子がよく分かる」と保護者の80%以上が答えている。 学校行事や説明会等の学校公開で、保護者以外の来校者・参加者が年150人以上である。 いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。	渉外部 教務部各学部 教務部 生徒指導部各学部	保護者同士の親睦を深めたり、研修等の場を提供したりするなど、保護者のニーズに沿った事業を実施していく。 各便りや連絡帳、Webページの記事等に、個人情報に留意しながら学習の目的や取組などを入れて分かりやすく伝える。 学校便りを近隣の小・中学校や学校評議員の協力を得て地域に掲示を依頼し、学校公開について広報する。 いじめの認知の仕方について、PTA実行委員会や授業参観などで学校いじめ防止基本方針と関連資料を配付し説明する。	A (94%) A (100%) C —	A (97%) A (92%)	新型コロナウイルス感染症への学校の対応について多くの方に満足いただいているので、引き続き丁寧に対応する。 写真を多用するなど、分かりやすく情報を提供しているが、更なるタイムリーな情報提供を望む意見もあるので、Webページ業務等の効率化を検討する。 学校参観への参加者は現時点で40名程度で例年どおり。行事については、感染症対応のため保護者以外に公開をしない。 臨時休業のため、保護者全体(特に新入生)に周知を行う機会が設定できていないので、今後周知の機会や方法を探る。	A (97%) A (100%) C B (81%)	A (94%) A (94%)	感染症への学校の対応について満足いただいているが、更に開催方法等の工夫で負担を減らしていく。 引き続き、見やすさや分かりやすさ、迅速性などに留意してお便りやWebページなどを作成していく。 感染症への対応のため今までどおりの学校公開は難しいので、インターネットやWebページ上の動画公開などで広報していく。 感染症への対応のためPTA行事での周知は難しいので、インターネットや一斉メール等を活用し90%以上の達成を目指す。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	「ふじっこくらぶ」のスタッフ(本校職員・市教委指導主事)及び参加児保護者の90%以上が就学先の相談の場として有効であると答えている。	地域支援部(教育支援係)	毎回終了毎に簡単なアンケートをとる。アンケートでいただいた意見は次の活動に生かす。	B	ふじっこクラブは2回の実施で参加者は1名(延べ2名)。アンケートの回答では、就学先の相談の場として有効であること、参加児童に良い変化が見られていることから満足いただいている。	B	B	ふじっこクラブに参加する児童や保護者には満足いただいているが、本校に進学する希望がある児童のみの少ない参加者となっている。地域の問題を抱えた児童等の支えとなっていきたい。	
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	巡回相談後、手立てなど話し合った内容を校内に周知し、共通理解・指導を図っていると相談者の90%が答えている。	地域支援部	巡回相談での話し合いの内容を職員に報告し共有できるよう記録した用紙を渡すとともに、後日状況を確認する。	B	感染症対策のため、例年に比べ巡回相談等の希望が少ないが、徐々に増えてきている。記録用紙は半数程度に手交していて、全て指導改善のため役立っている。	B	B	例年に比べ巡回相談の回数は少ないが年度後半は回復してきた。また、以前は小学校がほとんどであった相手先も、幼稚園や中学校へと広がってきている。	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	90%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。	学習指導部各学部	計画立案の際、保護者の参画を促し、学校と家庭で共通理解のもと指導を行うとともに、評価を連絡帳や通知票で行う。	A (100%)	A (100%)	保護者と教師双方高い値だが、更なる保護者の参画や効率的な作成のための書式の改善を望む意見があるので、教務部で検討する。	A (100%)	A (98%)	書式を完成させることはできなかったが、教育課程の説明会を企画し、資料化することができた。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	校内研修のテーマに沿った事例検討と研修内容の共有を月1回程度行う。	学習指導部	他校のアセスメントの手法を参考にして、本校なりの実態把握の内容を具体化する。	B (61%)		低評価の原因の一つとして、指導に係る協議時間の少なさがあるので、生み出す業務改善を行う。	B (64%)		先生方の残業は確実に少なくなっているため、次年度に向け分掌業務等を整理する。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策について学校からの情報提供や対応に保護者の90%以上が満足している。	保健安全部	感染症の罹患状況や注意喚起について、ホームページや玄関の掲示などを活用して周知に努める。緊急な場合にはオクレンジャーや連絡帳を通して知らせる。	A (100%)	A (98%)	学校からの一斉メールや通知については、できる限りタイムリーに発信できているため満足度は高い。様式の見やすさ、分かりやすさへの指摘があるため今後工夫する。	A (100%)	A (98%)	各種保健関係書類の様式について見直し、更に簡潔で分かりやすいものとした。国の言う押印省略を含め、Webページ等を通じて情報を発信していく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	90%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答えている。	保健安全部	火災、地震、不審者、等の対応マニュアルを、統一された図式に変え、全職員に配付し、掲示する。	A (100%)	A (94%)	マニュアルを統一し分かりやすくなり、保護者の満足も得ているが、学校の取組を説明する機会が持っていないので、今後機会を探る。	A (100%)	A (94%)	行事等の機会がほぼないため周知は難しい。Webページやお便りなどで積極的に周知していく。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、100%の教員が説明できる。	移行支援部各学部	移行支援部を中心に各学部のキャリア教育の具体的な計画を立てるとともに、係と部主事の協議を学期に1回行う。	A (91%)		職員研修の一つのテーマとして取り上げ好評を得ていて、具体化も進んでいる。新規のキャリアパスポートの充実を図っていく。	A (89%)		キャリア教育全体計画の完成、キャリアパスポートの実施を達成できた。今後は指導計画、授業での更なる具体化を目指す。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	「小学部→中学部、中学部→高等部、高等部→社会」の移行に向け、早期から本人及び保護者と協議する。	移行支援部各学部	保護者と直接話す機会において移行を話題にあげて把握し、早期から福祉等の関係機関とつながるメリットを伝える。		A (98%)	丁寧に進路面談をしたり、PTA行事のテーマとしたりして充実はしてきている。小中の頃から先を見据えた指導の更なる充実を図る。		A (93%)	PTA進路研修は実施できたが、保護者との面談の機会は減っているため、密を避けつつ適宜面談を実施できるようにする。